絵画専攻
日本画領域
油画領域
版画領域

Painting Course
Japanese Painting
Oil Painting
Printmaking

伊勢 あゆみ

ISE, Ayumi

修了論文：人物画のイラストレーションと受け取られやすい方向性、絵画と受け取られやすい方向性

Figurative paintings that tend to be perceived as illustration,
and figurative paintings that tend to be perceived as art

画面からの視線

The gaze from a painting

残滓
Leavings
岩絵具 / 和紙
Mineral pigments on Japanese paper
91 × 116 cm

　絵のモチーフは枯れた花で、テーマとしては造形自体の面白さと、役に立たなくなってしまった物の悲しさを描くことで「かわいそう」という印象を喚起させること、技法の面では岩絵の具を使って制作し、粒子であることを活かした重ねる順番・量などで絵として見ることができるのと同時に、近付いて見たときに物質として面白く見ることのできるものを目標にして制作していました。

井山 真里

IYAMA, Mari

共有された潜在意識

Shared subliminal image

作品において、文化背景とりわけ自分の生まれ育った精神的背景は作品の根本をなし得る。生まれ育つうちに、知らずに身に付けた思考基盤は、一つの形に意味を見出す。そこにある形は一つの鏡として、それぞれの人々の持つ精神、文化背景による過去に視覚を通じてリンクする。導きだされるイメージは一つではない。しかし、そのイメージは常にこの世界へと還元される。故に、その形が表すのは、多種多様で流動する世界の、その根底にある不変の真理なのである。私は、日本で生まれ育った自身の思考回路と、一生物としての人間の目でもって、それを自然の中に、人の思考の中に、見てゆきたいと考えている。

修了論文：日本における美的条件（表裏一体の美学）

Japanese aesthetic requirements (Aesthetics for unifying the internal and external)

共有された潜在意識 / Shared subliminal images
墨、箔 / 和紙 / Sumi, leaf on Japanese paper
サイズ可変 / Variable size

岩﨑 夏子
IWASAKI, Natsuko

自然エネルギーの活力 —活動の源として体内に保持する力—
The transformative power of nature –inherent natural power as the source of all activity–

水、地、風、火
Water, earth, air and fire
墨、インク、顔料、胡粉 / 綿布
Sumi, ink, pigments, whiting on cotton
各 200 × 135 cm

生物の美しさ、内から沸き上がるエネルギー、もっと深く目には見えない内面的なもの。食べる為に料理を作るように、体力を戻す為に眠るように、表現する為に手を動かすように、そんなエネルギーそのものを描きたい。

修了論文：日本の絵画の可能性（テクノロジーの進化が与えるもの）
Possibilities of Japanese painting (with the evolution of technology)

WHISTON, Jonathan Ciaran

日本画における漆とカシューニス
Use of Japanese lacquer and cashew lacquer in Japanese painting

　柴田是真の漆絵を日本画の展示会で見たことをきっかけに、自分の制作にも漆を使用したくなった。
　漆でアレルギーを起こしたことから、少しずつ漆をやめて、漆の代わりに、質感が似ているがあまり有害ではないカシューニスを使うようになってきた。発色が鮮やかで、厚く塗ると自然にしわしわとした模様が出てる。美しい光沢という特徴があり、画材として非常に魅力的だと感じる。その珍しい質感を上手く生かすと同時に、和紙等の伝統的な日本画における素材とどのように組み合わせることができるかについて長く悩んでいたが、最終的に無理やりに岩絵の具などを一緒に使うと、むしろ両方の力が弱まることが分かった。なので、最近は和紙を使用せず、直接パネルに盛り上げ胡粉とカシューニスを用いて描いている。そうすることで半立体的で、インパクトのあるマチエールを得られる。
　しかし、その技術的な悩みと同時に、世界の様々な政治的や環境的な問題に対し、意識を深める武器として美術を使うという可能性について考えるようになった。特に母国のイギリスを長く離れて、政治的な活動に参加したいという気持ちが溢れ、制作を活動の一つのやり方として検討しようと思っている。この作品は、イギリスで戦後からの社会主義的な資本主義を弱め、さらに極端な資本主義の開発に手を出したイギリス人政治家を描写しようとした。極端な資本主義、いわゆる経済的な「新自由主義」のイデオロギーを発表したミルトン・フリードマン経済学者から始まり、80 年代に労働組合を破壊したサッチャー首相、イラク戦争を支持したブレア首相や、現在のイギリスの福祉制度を崩壊させせようとしているキャメロン首相とボリス・ジョンソン（ロンドン市長）をシリーズにした。まだ政治的な運動としての作品、または風刺的な作品はどこまで現実に影響を与えられるかを疑問視しているが、これから日本の政治も作品で扱おうを思っている。

修了論文：政治的な運動としての美術
Art as activism

1：ボリス・ジョンソン / Boris Johnson

イギリスの反革命の英雄 / Heroes of the English counter-revolution
カシューニス、胡粉 / 木製パネル
Cashew lacquer, whiting on wooden panel
各 183 × 92 cm（5 枚組）

2：マーガレット・サッチャー / Margaret Thatcher

3：ミルトン・フリードマン / Milton Friedman

4：トニー・ブレア / Tony Blair

5：デーヴィッド・キャメロン / David Cameron

櫛田 彩菜
KUSHIDA, Ayana

忘却と想起の狭間に在る存在
Existing between forgetfulness and recollection

私にとって記憶の中の存在というのは、果てしなく広く、閉ざされた内部の、非常に限定された場所に生きているものだと考えている。繰り返される行為の束の間に、一瞬だけ見えた景色のようなものを、絵画の中に求めて、そして現に見ているような気がするのだ。

そこにはすでに、これから進行していくであろう「いま」の「感じ」と、全く未知のことが混在している。私たちは喪失され続ける「いま」の中で、それに出会うのだろう。

起き上がる気配 / Rising sense
岩絵具、墨、金箔、銀箔 / 雲肌麻紙
Mineral pigments, Sumi, gold leaf and silver leaf on Japanese paper
192 × 364 cm

修了論文：芸術における忘却と想起をめぐって
Forgetfulness and recollection in art

白鳥 洸
SHIRATORI, Kou

日本画とサブカルチャーの融合の研究
Study on fusion of Japanese painting and subculture

Rush hour
カラーインク、墨、胡粉 / 雲肌麻紙
Color ink, Sumi, whiting on Japanese paper
280 × 345.5 cm

修了論文：アニメ・漫画は日本画になり得るか
Can “anime” and “manga” become Japanese painting?

（部分）

私は、「日本画とサブカルチャーの融合の研究」という研究テーマで制作・研究を進めてきたこともあり、修士論文を「アニメ・漫画は日本画になり得るか」というタイトルで提出させて頂きました。村上隆のスーパーフラットの価値観やオタクの文化の特徴を挙げ、日本画・漫画・アニメの歴史を一から振り返りました。そして、それぞれに共通する「デフォルメ」や「彩色の仕方」そして「発想」等を挙げ、それぞれの親和性の高さを説明しました。そこから、自身の作品のスーパーフラットな発想に近い感覚で制作した作品について解説し、その中で漫画のコマ割りからヒントを得て製作したこの修了作品「Rush hour」に関しても述べています。日本画滅亡論が唱えられる現在、そんな現状を打破したくて、もっと大衆に日本画のことを知ってもらいたいと考え、この研究を行ってきました。

照本 美幸
TERUMOTO, Miyuki

動物を媒体とした感情の表象
Emotional representation using animals as the medium

ひとりひとりが独り
Everyone is alone
岩絵具、墨、胡粉、箔 / 麻紙
Mineral pigments, Sumi, whiting and silver leaf on Japanese paper
388 × 260 cm

母体から生まれおちた瞬間より私達は個別の存在である。ゆえに他者と自己との間に生まれる、あらゆる執着、確執を原因に業が生じる。それは混沌とした多くの感情を内包する、肉体という器を有したことで起こる試練である。

繋がり千切れまた繋がろうと繰り返す、人との出会いと別れが限りの無いように続くのは、私達一人一人が孤独であるから連続する。私達の心の虚ろは、この世をまた離れる時まで埋まることはない。

肉体を得たその時から、育つ環境、性別、容姿、全てが異なる私達が、一人一人の独自の道を歩むことによって構成された価値観。それを他者に言葉を尽くし伝えようとも、真に共有することは不可能に近い。

それでも私達は他者を必要とする。肉体をどんなに摺り寄せてみたとしても溶けあうことのできない完全な輪郭をもった私達は互いの考えを真に共有することはできないかもしれない。しかし、この世で日々課せられる試練とは私達の経験となり、それは私達の想像力を拡張させる力ともなる。それによって私達は個である互いを認めあい、一人一人が孤独であることを知る。

私達は一人一人が孤独であるからこそ他者をもとめる。孤独であるがゆえに虚無にはなり得ない。

修了論文：動物を媒体とした感情の表象
Emotional representation using animals as the medium

古舘 幸一
FURUDATE, Koichi

境界の研究
Study of boundaries

壁のようなものの上に具体的な風景や私の内面世界などのイメージを混在させ、無機物から有機物に転換にしようと試みている。しかしそれに成功した次の瞬間その物体はただの壁のような無機的な物質に戻ってしまう。この転換が繰り返し行われると有機物と無機物の境は崩れ去っていき、相反するはずの両者の境は曖昧になっていく。このように一つの物質の中で複数の世界が交錯する作品が作れたらと思い制作している。

海 / Sea
漆喰、ピグメント、鉄粉 / 木製パネル / Plaster, pigment, iron powder on woodern panel / 240 × 460 cm

修了論文：狩猟と芸術 / Hunting and art

三毛 あんり
MIKE, Anri

自画像について
Self portrait

　何故私達は自分の姿を見たがるのだろうか。
　鏡に映し出された私とは、実際の私にとって何なのだろうか。映し出されたこの像こそが私なのだろうか。鏡に対した時、私達は不思議と自分の顔を覗き込んでしまう。鏡自体を捉えることは難しく、また、自分の顔と同様に映り込んでいる背後の壁や傍らの棚などに注目することは非常に稀である。
　私たちにとって、「鏡」と共に想起されるのは鏡に映る自分の顔なのである。ならば私たちにとって「鏡」とは自分の像のことである。
　私達が自分の像を見るために必要不可欠なものがもう一つある。それは光だ。
　これは思い出だが、9 歳の頃、祖父母宅によく預けられていた私は、家事で忙しい祖母の他に遊び相手もおらず、寝室で電気を消してひとり遊んでいた。完全に真っ暗になるのは怖いので、ドアは少しだけ開けておく。ある日、ドアの隙間から薄明かりの射す暗い部屋の中で、ふと、祖母の鏡台に映った自分が目に付いた。私は鏡の中の自分をしばらく眺めて、これが自分かと気付き、放心して涙を流した。何故か恐ろしく不安な体験であった。
　あのとき私が鏡の中で自分に出会ったのは、単に光のせいである。
　ただの光として私の目に射し込んでくる私の像は、何故か勝手にまばたきをしている。私の意思とは関係なく、まばたきをしているのだ。

光 / Sunshine
岩絵具、墨、胡粉、金泥 / 和紙
Mineral pigments, Sumi, whiting and gold paint on Japanese paper
227 × 182 cm

修了論文：鏡と画と像 ―映ることについて―
Mirror, picture, idol

赤池 亮太
AKAIKE, Ryota

刹那的永遠性
Ephemeral Permanence

（左）とめど / ceaseless
岩絵具、アクリル絵具 / パネルに寒冷紗
Mineral pigments and acrylic on cheesecloth mounted on panel
182 × 227 cm

かたちを一度も止める事なく踊り続ける炎は、有限と無限に行き来する我々の生命と重なる。生命の刹那的永遠性を作品に込めました。

（右）Fw : P
岩絵具、アクリル絵具 / パネルに寒冷紗
Mineral pigments and acrylic on cheesecloth mounted on panel
227 × 182 cm

「Fw:P」の P は Physical である。様々な偶然と必然が重なりながら肉体が継承されて今ココに在る、居るというエネルギーの凄まじさ、素晴らしさ、不可思議さ。

からだは毎日、毎時毎秒生まれ、生まれ果てるまで生まれ続けている事を実感し、その事実は思い測る事も、言語化、数値化する事もできない。
只々、この瞬間を受け入れて感謝するのみである。

修了論文：美への信仰 / The cult of beauty

斎藤 ひかる
SAITO, Hikaru

修了論文：日本画をめぐって ―絵画のかたち―
Concerning Japanese painting –form of the picture–

装飾的な絵画とは
What is decorative painting?

よみがえる太古のかなで、導かれる新しき調べ、
キミに紡がれる交響曲

シンフォニア
Symphonia
アクアグルー、岩絵具、洋箔
Aqua glue, mineral colors and foil
181.8 × 227.3 cm